

今年度を振り返る ～進路決定状況（3月21日現在：詳細は裏面）～

令和6年度卒業生の現在までの進路先は裏面の通りとなりました。卒業生188名のうち、上級学校への進学者は139名（進学率：73.9%）でした。今年度は特に公務員試験の合格者29名、民間就職が15名と公務員に進む生徒が今までで一番多かったことが特徴です。また、国公立大の一般選抜後期まで粘り強く挑戦している生徒も多くみられました。国公立大学の合格発表は3月20日頃なので、ようやく結果が出てやっと一息ついた人、次年度に向けて挑戦を続ける人もいます。本当にお疲れ様でした。新2、3年生も先輩方の挑戦する姿を追い頑張っていきましょう。今回は指導にあたった進路指導部の先生方に、今年度を振り返り進路目標達成に向けて新2、3年生が取り組むべき課題や心構えについて聞きました。



進学 国立大学7名 公立大学20名 私立大学72名 短期大学7名 専門学校等33名

目標とする進路を達成した多くの生徒に共通することは、必要なことをやり遂げる自己管理能力があり、助言や指導に素直に応え努力していたことです。目の前の目標に集中して取り組む姿勢や環境を自らつくりだし、周囲が浮足立った時期でもSSR教室で遅くまで集中して勉強したり、期限に合わせてスケジュールを調整しながらアドバイスされたことを実行にうつしてきた生徒たちがそうでした。受験という経験は、あることを成し遂げるにはどのようにすればよいのかという思考力、自分は今、何を優先すべきかといった状況判断力を磨く機会を与えます。大きなプレッシャーの中だからこそ、限られた時間の中で物事を筋道立てて考える力も培われます。その結果、不合格という挫折体験でさえ、成功以上に将来の自分を支える財産になります。

受験に立ち向かううえで一番大事なことは『学校生活をしっかりと送ること（授業・提出物・服装・礼儀など）』です。これらがクリアされると、目標に集中して取り組む土台ができます。つまり、あたりまえのことをしっかりやることです。普段の「人の話や連絡をしっかりと聞く」「提出日に忘れずに出す」「自分の怠け心に負けずに取り組む」などはすべてに通じる大切な訓練です。このステップのどこかでつまづいている人は、まずそこから見直しましょう。これは、部活動でいざ大会に出た時、強い相手に挑む前の準備と同じではないでしょうか。さらに、普段からきちんとした態度で過ごし、素直に耳を傾けて実行にうつす人には、大変な時に力を貸してくれる人が必ず現れ助けてくれます。努力する姿は周囲の人をも動かし、皆さんをより高めへと導いてくれるはずです。（宮本）



就職 公務員29名 民間企業15名

今年度の公務員の最終合格者は29名（※のべ合格数は64名）です。さて、公務員について知ってほしい情報があります。

- （1）公務員の1次試験は9月に実施され、その内容は「一般知能」（高校の授業にない分野）と「一般教養」（高校の授業で学習する分野）です。本校では「一般知能」は東京アカデミー青森校と連携し、2年生の11月から早めに学習しています。
- （2）公務員の2次試験は10月～12月に実施され、個人面接を中心に（集団面接・グループディスカッション・体力検査・適性検査・作文）を組み合わせて実施します。

《公務員をめざす生徒のみなさんへ》

- ① 高校三年間の授業に毎日まじめに取り組みましょう。（基礎学力）
- ② 部活動やボランティア活動など他者と交流する活動に積極的に取り組みましょう。（コミュニケーション力）
- ③ 公務員について具体的に調べたり、新聞や本をどんどん読んで自分が生きる社会について理解を深めよう。（探究力）（齋藤）

就職活動の履歴書や面接で志望理由は必ず必要です。「自分がしたい仕事内容」「なぜその企業を選んだのか」「学校生活で何を学び、どう成長したのか」などを改めて考え、自分なりに文章化して保存しておきましょう。また企業によって一般常識のテスト、作文（小論文）、適性検査等を課したり、二次～三次選考を行う場合もあります。試験内容も大事ですが「あらゆる場面で考え、学ぼうとする姿勢」が感じられる人物が採用される可能性が高いです。

そのためには、地道ですが日々の授業への取り組み方が重要になります。学習内容をさらに定着・発展させるためにも「授業に集中する」という基礎基本の徹底は大事です。「就職＝勉強はほどほどでよい」わけではありません。「現在の自分の選択肢を広げるため」「就職後、企業や社会情勢が変化しても対応できる自分をつくるため」に勉強を続けている、という学校生活の意義を再確認しましょう。（橋本）

進路指導部主任より ～一人一人が輝くために～

本校の記録の1ページとして残しておきたい。それは、3年前まで本校に勤務していた数学の柿崎悟先生（3年1組担任兼学年副主任、ボクシング部顧問）についてである。先生は、今年まだ55歳という若さで急逝された。本校では、53回生を卒業させた先生でもある。

私にとって先生は、どんな状況にも柔軟に対応し、学年経営の足りない部分を補ってくれる同志だった。コロナ禍で多くの行事が中止された中、普段休みがちな生徒が行事では生き生きと参加できたのは、担任であり学年副主任であった先生の大きな支えがあったからだ。

飲めば、学生時代プレーしていたハンドボールの話や熱く語る先生の姿が思い浮かぶ。お通夜では、教え子たちが大勢駆けつけ、気丈に振舞っていた者も、祭壇の前ではこらえきれず号泣する姿が見られた。大学に進学した卒業生たちはもうすぐ4年生となり、就職活動を控えている時期だ。また、就職した卒業生は、社会人として経験を積み、自分の考えで行動できるようになっている頃だろう。彼らは、その成長した姿を先生に自慢げに報告したかったに違いない。それが叶わなかったことが、どうにも残念でやりきれない。

先生は転任先でも、53回生の成長を気にかけていた。どうかご安心ください。卒業生たちは立派に成長し、先生の教えがしっかりと息づいています。

ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌。（山本）



・卒業生は6人が認定証（35単位）9人が奨励証（20単位）を取得しました。また、100単位以上の活動を行い、あおもり県民カレッジ認定証を交付された生徒もいました。

・各種講座やボランティアの案内は教室に掲示されているチラシだけでなく、新聞やネットを活用し情報収集に努めましょう。（石岡）

「何を学びたいか？」を意識して取り組もう

